
「去勢抵抗性前立腺癌に対する Ra-223 の治療効果についての検討」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの情報を用いた以下の研究を実施いたします。

本研究は、埼玉医科大学総合医療センター研究倫理委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2001年1月1日より2024年7月31日の期間に埼玉医科大学総合医療センター泌尿器科を受診し、骨転移のある去勢抵抗性前立腺癌と診断され、診療を行なわれた患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

現在日本で転移のある去勢抵抗性前立腺癌に対して使用可能な薬剤は、エンザルタミド、アピラテロン、ドセタキセル、カバジタキセルですが、それ以外に骨転移のある方に対してはRa-223(ゾーフィゴ)という線という放射線を出す薬剤を用いた治療も行われています。Ra-223については、骨転移のある方のうち、どのような方がRa-223の治療対象として最適なのか詳細には分かっておりません。当院の患者さんの過去の治療内容を参照し、Ra-223がどのような骨転移のある去勢抵抗性前立腺癌の方に最適なのかを明らかにすることを目的としています。

3. 研究期間

病院長の許可後～2026年12月31日

4. 利用または提供の開始予定日

2024年10月3日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

検査データおよび診療記録等を使用します。

この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学総合医療センター泌尿器科において、研究責任者である矢野 晶大が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。その

ため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。具体的には、以下の項目になります。

年齢、性別、ECOG-PS、家族歴、症状

血算、白血球分画、アルブミン、クレアチニン、カルシウム、LDH、ALP、CRP、PSA および PSA doubling time、NSE、ProGRP、LH、testosterone、DHEA-S

IPSS（国際前立腺症状スコア）、IPSS QOL スコア、過活動膀胱症状スコア、

前立腺体積、転移の状況（MRI、CT、骨シンチなどの画像所見）、遺伝学的検査の結果などになります。

2. 試料・情報の取得方法

患者さんの検査データおよび診療記録等を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

研究責任者	泌尿器科	医師	教授	矢野晶大
研究実施者	泌尿器科	医師	准教授	岡田洋平
	泌尿器科	医師	准教授	竹下英毅
	泌尿器科	医師	講師	北山沙知
	泌尿器科	医師	助教	永本将一
	泌尿器科	医師	助教	立花康次郎
	泌尿器科	医師	助教	新井昌弘
	泌尿器科	医師	助教	田中佑宜
	泌尿器科	医師	助教	鄭善仁
	泌尿器科	医師	助教	藤井健太
	泌尿器科	医師	助教	横田和樹
	泌尿器科	医師	客員教授	川上理
	泌尿器科	医師	客員教授	諸角誠人

4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学総合医療センター 病院長 別宮 好文

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学総合医療センター 泌尿器科 矢野 晶大

住所：〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981

電話：049-228-3673（土日祝日を除く 9：00～17：00）

○研究課題名：去勢抵抗性前立腺癌に対する Ra-223 の治療効果についての検討

○研究責任者：埼玉医科大学総合医療センター 泌尿器科 矢野 晶大